

生涯にわたって 社会のいたるところで学ぶための方法序説

若者が地域とつながるきっかけづくり ～生涯学習センターを活用した学びと交流

中泉 理奈

提案：高校生・大学生世代の
対話と地域交流の機会をつく
ってみませんか？

荒川区では、「荒川区生涯学習
推進計画（第三次）後期」（20
23）の重点プロジェクトにお
いて「子ども・若者の未来を育
む学びの推進」を掲げ、各種事
業へ若者が主体的に参画できる
取組を推進しています。

しかし、2024年に実施し
た、荒川区子ども・若者総合計
画策定のためのニーズ調査によ
れば、地域活動への参加経験で
「ほとんど参加していない」が
84・8％と最も多く、次いで「と
きどき参加している」12・8％、
「できるだけ多く参加している」
1・6％という現状がありました。
「ほとんど参加していない」
を選択した方の理由は、「どのよ
うな地域活動があるか知らない
から」53・1％、「忙しいから」
42・9％、「知っている人がいな
いから」40・6％となっております。

事業の周知とともに、同世代が
参加する地域活動を若い世代に
届く形で発信する必要があるこ
とがわかりました。

こうした背景から、生涯学習
課では2025年度より「ユース
育成事業」、「青年交流事業」、
「ティーンズワークショップ」の
3つの若者対象の事業をスター
トすることとなりました。

本稿では、生涯学習センター
で実施した、高校生・大学生世
代を対象とした「ティーンズワ
ークショップ」の事業づくりの
実践を紹介します。

地域との接点が少なくなる「高校 生・大学生世代」へのアプローチ

本事業の企画にあたり、高校
生・大学生世代と地域社会との
関係性に着目しました。区立中
学校の存在により比較的地域と
の接点が多い中学生に比べ、高
校生以上になると、区外への通
学者が増加します。このため、
生涯学習課を含めて区全体でこ

の世代との継続的な接点を持つ
機会が大幅に減少している現状
がありました。

部活動やアルバイトといった
多岐にわたるコミュニティへの
参加機会が増える一方で、自分の
住む地域との関係性は希薄化す
る可能性が懸念されていました。

そこで、生涯学習センターで
は、高校生が学びを通して自分
の住む地域とつながりを持ち、
地域の活動に触れるきっかけを
つくるため「ティーンズワーク
ショップ」を企画しました。

事業の検討にあたり、区内で
若者を対象とした、対話と交流
の事業を運営する「東京ガレ
ージ」（注）主催の「よるのがっ
こう」、「対話の食卓」事業を視察
し、私自身も活動に参加させて
いただきました。

「よるのがっこう」は、10代
と大人が共に集まり、夜の時
間を共有し、対話や新しい体験
を通して、価値観や選択肢を広
げる活動です。「対話の食卓」は、

あらかじめ設定したさまざまなテーマを軸に、10代と大人とが食卓を囲み対話を重ねていきます。

私はグループに入って多世代での対話に参加しました。企画メンバーがファシリテーターとなり、話しやすい雰囲気づくりと参加者の考えを深める問いを投げかけていたのが印象的でした。参加者が安心できる場で、

自身の思いや考えと向き合い、自分の経験をふりかえり、言語化することの重要性を体感しました。

多様な大人や若者世代との交流は、私自身が他者の意見に耳を傾けることの面白さや、自身の話を聞いてもらえることの心地よさを深く実感する機会となりました。この体験を通して、若者たちにとっても、こうした多世代や同世代との地域での交流が同様の豊かさをもたらすのではないかと強く感じています。この体験から、「対話を通して

人や地域とつながる、そこから地域への参加や活動のきっかけをつくりたい」と考え、区内で若者を対象とした事業の経験があり、若者がつながる場を持つ東京ガレージに講師を依頼して、「ティーンズワークショップ」を実施することになりました。

旧小学校舎を活かした「くらやみ」の共同探求と表現活動

若者たちが、地域で交流しながら学べるプログラムとして、当センターの「旧小学校の建物」という特性を活かしたワークショップを検討しました。

第1弾「よるのがっこうくらやみ 探求ゲーム」(2025年8月)

講師からの提案で「くらやみ」をテーマに、生涯学習センター内の体育館や音楽室、多目的室などを活用し、チームごとにミッションに沿ったアイテムを使い、「くらやみ」を探求する体験型ゲームづくりを行いました。

暗闇の中で音を出す、光を効果的に使う、何かを探すといった仕掛けをそれぞれ工夫して考え、ゲームを創り上げました。後半はそのゲームを参加者全員で体験しました。暗闇の中で協力しながらそれぞれの特技や個性を活かした、独創性あふれる貴重な体験となりました。

実施後の講師とのふりかえりでは、若者世代への周知が課題として挙げられました。

また、対話を通じて共同で探求する性質上、高校生・大学生(10代社会人含む)に限定した方が深い関わりができる

こと、さらに「区内在住・在勤・在学のみ」という制限を外すことで、区外の友人も誘いやすく、参

加のハードルが下がるのではないか。という意見ができました。

第2弾「よるのがっこうくらやみ クエスト」(2025年12月)

前回の課題も踏まえ、長期休みに合わせて第2弾を企画しました。近隣の大学や高校とつながり、チラシの配架を依頼するなど新たな周知先を増やした結果、16名の参加がありました。

前回の内容をさらにブラッシュアップいただき、施設を活用した共同探求・表現活動を行いました。数名のリピート参加者

好評につき
第2回
開催決定!

この夏、よるのがっこう
人達のテーマを一緒に探求する体験型ゲーム
くらやみ
だれもが、よるのがっこう
よるのがっこうクエスト

参加者募集

開催日時 2025年12月21日(日) 16:00-19:00

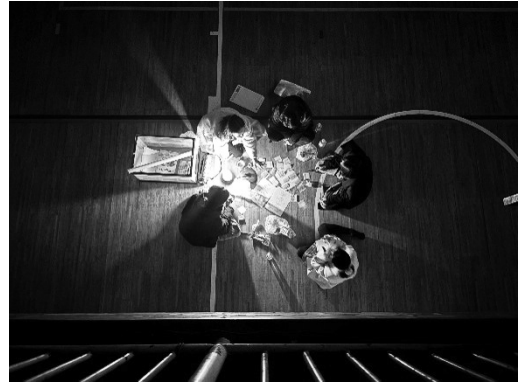
会場 生涯学習センター (無料) 20名 (先着)

対象 15-24歳までの学生(先着順)
※高校生・大学生 無料 高校生以上の方は
15歳以上の学校の通っているか社会保険番号(13)を提示ください

申し込みフォームよりお申込みください

申込先 ガレージ

お問い合わせ 区立生涯学習センター (03-5422-2142) 108
(2F-6) andara@city.ryugasaki.jp



れしかった

・暗闇の環境やグループ活動により、安心して意見を出せた・自己表現できた

・知らない人や同年代と関わり、協力、交流、一体感を感じられた
・非日常的な体験や遊びを通して、新鮮さ、懐かしさ、楽しさを感じた

初めて出会う人々との交流に喜びを見出し、また暗闇という「非日常」の環境が、他者と安心して対話できる場として機能したことが示唆されます。

②モヤっとしたこと

・活動時間・発表時間が短く、十分に制作・発表できなかった（複数）

・進め方やルールが分かりにくく、戸惑いがあった

・グループ内での情報共有や意思疎通が十分でなかった場面があった

「モヤっとしたこと」の項目

では、未記入が散見されたものの、特に活動時間の不足を訴える声が多く聞かれました。また、暗闇という環境が視覚情報を限定し、結果としてグループ内での意思疎通を困難にしていた可能性も考えられます。

③自分が大事にしていたこと

・他者の意見を尊重し、安心して話せる雰囲気づくり

・くらやみや会場特性を生かし、楽しさやワクワク感を重視する姿勢
・グループで一体となり、それぞれが感じたことを大切にしながら主体的に取り組むこと

「自分が大事にしていたこと」の項目には、特に多くの記述が寄せられました。これは、参加者の皆さんが単に活動に参加するだけでなく、他者の意見を尊重し、安心して発言できる心理的・安全性の高い雰囲気づくり、そしてグループとしての協働や一体感を重視しながら、個々が

主体的に活動に取り組む姿勢を意識していたことを示唆しています。

さらに、「暗闇」という非日常的な空間の特性を最大限に活かし、参加者全員が楽しみやワクワク感を共有しようとする意欲も共通して見られました。これらの要素は、参加者アンケートの①で述べられた「他者との繋がりがや安全な自己表現の喜び」と密接に結びついており、参加者の積極的な主体性が、体験をより豊かにし、深めることに繋がったと考えられます。

参加者の主体的な取り組みを引き出したのは、抽象的なテーマ設定と、参加者自身が創造し、学びを深める「余白」を意図的に設けたプログラム設計、各グループの話し合いに寄り添う学習支援によるものと考えております。プログラムの設計に、改めて感謝いたします。

がグループ内で積極的に働きかけてくれたこともあり、対話と交流がさらに深まる様子が見られました。

参加者の声から見た効果と気づき

終了時のアンケートでは、学習のふりかえりとして次の3点について、自由記述を設けました。

①うれしかったこと

・自分たちが作った作品・体験に対する他者の反応や評価がう

一過性で終わらせない「継続的な関係づくり」への工夫

事業終了時、社会教育指導員から「生涯学習センターで、また集まりませんか？次に何をやるかを相談する『ゆるいミーティング（ゆるMT）』をやりましょう」と呼びかけました。アンケートでは6名の方が希望したものの、1月の初回参加者は1名でした。「参加したいけれど日程が合わない」と連絡をくれた方もいました。参加した方からの「ただ話すだけでなく、なにかすることがある方が参加しやすい」という声を反映し、3月は、「ポップコーンのフレイバーをつくる」、4月は自分たちで持ち寄ったゲームを体験する「ミニゲーム企画」を実施しました。

てくれました。定期的に集まる場を設けることで、参加してくれる若者がいることを実感することができました。

高校生・大学生世代は、学校、部活、アルバイトなど日程的な制約で参加できない状況もありますが、こうして定期的に若者と関係性を紡ぐ中で、今年度の事業づくりが動き出しました。

現在、ゆるMTのメンバーや、昨年の参加者が、次の事業づくりに参画できるよう、東京ガレージと相談を重ねています。

今回の事業をきっかけに、東京ガレージが実施する事業に参加した学生がいたことを知り、本事業が「地域とのつながりの第一歩」として機能したことをうれしく思っています。

また、定期的に集まれる「場」が生涯学習センターにあること自体が、地域でなにか活動したい学生にとっては、貴重であることを再認識しました。

今後は、これまでの関係性を

さらに深め、地域活動の体験学習ができるよう、若者自身が運営に関わるプログラムを検討していきます。今年の8月には「よるのがっこうナイトトレイル」を実施する予定です。

これからも生涯学習センターを活用し、高校生・大学生世代の学びと交流を広げていきたいと思っています。ぜひ、全国の読者の皆様が実践されている若者を対象とする事業について情報交換をさせていただけますと幸いです。

今回は、宮城県角田市から佐藤さんの「発想する！授業」です。私も楽しみにしております。

中泉理奈 荒川区地域文化スポーツ部生涯学習課社会教育主事

注：株式会社プライムヒルの教育事業

「よるのがっこう」HP
<https://yorunogakko.wordpress.com/>

豊かな体験が青少年を育てる —学校・地域・家庭が連携・協力—

編／伊藤俊夫 ISBN4-7937-0128-0 2003年9月25日発行 A5判 144頁 価格1650円（本体1500円＋税）送料310円

【主な内容】Ⅰ 豊かな体験が人間をつくる／Ⅱ 体験活動を推進する（スポーツ 文化・芸術 家庭教育等）／Ⅲ もう一つの公共サービス（PTA 公民館 青少年教育施設 図書館 博物館 NPO 学校支援ボランティア等）／Ⅳ 知恵と意欲の結晶（総合的な学習の時間 自然体験活動 ボランティア活動の教育力 唱歌と童謡 就労体験 モノづくり 農業体験等）

書店にお申し込みまたは直接日本青年館 までご注文下さい。
TEL 03-6452-9021 FAX 03-6452-9026 Email:social-edu@nippon-seinenkan.or.jp